

山中湖の結氷

5

氷上には戦車も乗った!?



結氷した湖でスケートをする人たち

出典：LAKE YAMANAKA（昭和54年）山中湖村観光課・山中湖観光協会

村の中心にある山中湖は、面積6.78km²の富士五湖最大の湖です。湖面の標高は980.5mと高いうえに、水深が13.3mと浅いことから、冬の寒さが厳しくなると結氷します。

氷が透明の「油氷」という状態になると、乗っても安心な丈夫な氷だと言われており、かつては毎年のように全面結氷していたため、人々は氷上でワカサギの穴釣りやスケートを楽しんでいました。

近年では、2006年に約22年ぶりにほぼ全面結氷しています。

わかさぎ穴釣りを冬の風物詩として残していきたい。

湖から切り出した氷を蔵に保存して、熱を出した時に使っていた。

湖の真ん中で富士山を見ながら家族でわかさぎ穴釣りをした。

おばさんがお客さんにあったかい牛乳やみそおでんを販売していた。

村のみんなの

声

ここ最近では、全面結氷はしないが、冬になると毎朝2cm以上凍っている。

流氷の上に取り残された人が救助されたことがある。

冬の気温が累計して-100°Cになると凍ると言っていた。

ドーム船は新しい冬の風物詩で、船内は結構暖かい。

明治の頃は、中野村の貧しさを解決するため、湖水に採氷権を設け、財源を確保していたと聞く。

雨水は山土できれいになって湖に流れ込んでいたが、工事で土砂も流れ込むようになってしまったらしい。

昔は、馬も米も野菜も洗えるくらい湖水がきれいだった。

振り起こされた

宝

- 湖の結氷
- 湖上の氷
- わかさぎ穴釣り
- ドーム船
- 山中湖天然氷
- 山中湖の水質
- 湖水に入る水

February

2月

冬の厳しい寒さ

6

寒いからこそその美しい景色



雨氷

村の標高は1000m前後と高く、大半はなだらかな起伏の高原地帯となっています。そのため、近隣の地域と比較して冬の寒さがきびしいのが、村の気候の特徴です。

村のみんなの

声

東京から友人が来ると、あまりに寒くて、二度と来ないと言われてしまう。

村の雪景色は水墨画の様である。

朝日が昇る時に、花の都公園のモミジに付着した氷が白くきれいに見える。

寒さを利用して、雪や氷のオブジェを作って、展示できるとよい。

冬の厳しい寒さは村一番の宝。

20年前は、ビールもコーラも凍った。

避暑地としての一般的な認識はあるが、実は冬が素晴らしい！

真冬の一番寒い時の朝8時前後にダイヤモンドダストが見られる。

雨がすぐ凍る「雨氷」は、木の枝が氷でつまれてキレイ。

冬の朝夕、太陽と反対側に「地球影（ビーナスベルト）」という青とピンクの2色の層ができる。

昔は-20℃くらいが普通。今は-16℃くらい。時々-19℃も。

掘り起こされた

宝

- 冬のきびしい寒さ
- 山中湖村の冬の絶景・雰囲気
- 雨氷
- 村全体の雪景色
- 花の都公園のモミジ樹氷

February

2月

ウィンタースポーツ

7

下駄^げスケートやカーリング^た



山中湖でのカーリング（昭和初期） 株式会社ホテルニューグランド所蔵

村ではかつて、結氷した湖上でのスケートや、なだらかな傾斜地形を活かしたスキーなどのウィンタースポーツが盛んに行われていました。

また、結氷した湖上を利用して、オリンピック競技としてよく知られているカーリングの大会が、昭和10年代に日本国内で初めて開かれています。



山中湖のカーリング場（現在）

村のみんなの

声

下駄スケートで滑っていた。

昔は、湖上で小中学校のスケート大会などが行われていた。

スケートができる湖として有名だった。

戦前には、ホテルニューグランド主催のウィンタースポーツ写真大会が開催された。

加古坂神社の上にあった県営スキー場では、40年前までよく自衛隊がスキーの練習に使っていた。

山中湖が人ごみで黒くなる程であった。

田んぼに張った氷でスケートをやった。稲の切株に注意！

富士急スキー場は、昭和38年に広々とした原野に開設し、リフトもあった。

日本のカーリング発祥の地であることをもっと周知させるべきだと思う。

年間通してカーリングができる施設があるので、将来ここからオリンピック選手が出るといいと思う。

振り起こされた

宝

ぜひ冬の湖上にスケートリンクを造ってください。

- ウィンタースポーツ
- カーリング^{ほっしょう}発祥の地
- 田んぼでスケート
- スキー場
- 9カーリング場
- 10県営スキー場
- 11富士急スキー場

February

2月

ケヤキ並木とヤドリギ

8

ヤドリギの実を食べる美しい鳥



ヤドリギに集まるヒレンジャク

長池のケヤキ並木とヤドリギ

ヤドリギとは、他の樹木に寄生する黄緑色の植物で、村のあちこちの木々に寄生しているのを見ることができます。

特に湖畔沿いのケヤキ並木でよく見られます。

冬にケヤキが落葉すると、ヤドリギの全体像が見えるようになり、2～3月頃には冬の渡り鳥であるヒレンジャクやキレンジャクがヤドリギの実を食べにやってきます。



ヒレンジャク (写真上)
キレンジャク (写真下)
写真提供) 有限会社マーディー

村のみんなの

声

ケヤキのほかに、ミズナラ、コナラにも着生している。

実をヒレンジャクが食べ、糞をすることで水辺の落葉樹が育っていると思う。

ヒレンジャクは、一度にだいたい7～10羽しか見たことない。

村全体のヤドリギマップの作成をしてはどうでしょうか。

ケヤキ並木のヤドリギにやってくるヒレンジャクは全国的に有名でカメラマンがたくさん来る。

ヤドリギは、長池の家の庭にもたくさんある。

夏は長池親水公園に並んだカメラマンが富士山を撮っているが、冬は集落側にカメラを向けてヒレンジャクを撮っている。

ヒレンジャクは、色といいサカといい大変綺麗。

ヒレンジャクは50～60羽来る。

ヒレンジャクは、ヤドリギの実を食べてすぐに飛んで行ってしまいますので、カメラに収めるのが難しい。

掘り起こされた

宝

●やどり木

●ケヤキ並木とヤドリギ

February

2月